

## 6. おわりに

2010年に発生したチリ地震津波に対する避難行動に関して、北海道釧路市を対象に、津波からの避難行動に関する要因について質問紙調査を行い、共分散構造分析により避難意思決定要因について検討するとともに、避難行動に及ぼすワークショップの効果を分析した。その結果得られた主な結論は以下の通りである。

- ・自宅が水に浸かると思った人や、避難しないと助からないと思った人は回答者の数%に過ぎなかったが、回答者の42%が避難していた。しかし、避難した人のほとんどは津波警報や避難勧告の解除前に、約半数が津波の最大波の到達前に自宅に戻っていた。
- ・避難した人、避難しなかった人ともに、浸水に対する不安が避難意思に大きく影響していたが、津波警報や避難勧告の認知は避難意思や浸水に対する不安に関係していなかった。
- ・津波からの避難に関する座談会への参加は、避難勧告が発令された当日における危険性の認識や、ハザードマップの認知等を高めていた可能性が認められた。

謝辞：

質問紙調査では、釧路市連合防災推進協議会に質問紙の配布を担当していただくとともに、釧路市消防本部および釧路市総務部総務課のご協力をいただいた。また、質問紙調査の回答者には、貴重な時間を割いていただいた。ここに記して謝意を表します。

## 参考文献

- 岩手県総務部総合防災室、岩手大学工学部付属地域防災研究センター（2010）：2010年チリ地震津波における避難行動に関するアンケート調査結果、33p.、<http://www.pref.iwate.jp/download.rbz?cmd=50&cd=27297&tg=3>.
- 加藤史訓，諏訪義雄，林春男（2009）：2006年千島列島沖地震における津波からの避難の意思決定，水工学論文集，第53巻，pp.865-870.
- 加藤史訓，諏訪義雄，桜井厚，安藤章，川除隆広（2009）：避難意思決定要因に基づく津波避難ワークショップの効果分析，海岸工学論文集，第56巻，pp.1356-1360.
- 加藤史訓，諏訪義雄（2010）：高潮・津波からの避難に関する調査，国土技術政策総合研究所資料，第568号，280p.
- 群馬大学災害社会工学研究室（2010）：平成22年2月28日チリ地震津波に関するアンケート【2010/04/21時点の暫定資料】，43p.、<http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/uploads/photos/230.pdf>.
- 静岡大学防災総合センター牛山研究室（2010）：2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査報告書，28p.、<http://www.disaster-i.net/notes/100316report.pdf>.
- 内閣府（防災担当）、総務省消防庁（2010）：チリ中部沿岸を震源とする地震による津波避難に関する緊急住民アンケート調査結果，35p.、<http://www.bousai.go.jp/oshirase/h22/tsunami1.pdf>.